

「科学技術の状況に係る総合的意識調査(NISTEP 定点調査)」にかかるQ&A

2019/9/13 更新

調査期間中に頂いた調査にかかわるQ&Aを適時掲載していきます。

Q. (交代・異動・転勤・退職について) 調査の案内の宛先となっている方が、交代・異動・転勤・退職している場合、どのように対応すればよいですか。

A. 調査票により、その地位にある方にご回答をお願いするのか、個人にご回答をお願いするのかの取り扱いが違います。

- ① 大学・公的研究機関グループの学長等・機関長用(ID が「1 及び 5」から始まる場合)
→ 学長や機関長の地位にある方にご回答をお願いしております。学長や機関長が交代された場合は、新任の方がお答えください。
- ② 大学・公的研究機関グループのマネジメント実務担当用(ID が「2 及び 6」から始まる場合)
→ マネジメント実務担当の役職にある方を調査対象としております。マネジメント実務担当の役職を交代された場合は、新任の方がお答えください。
- ③ 大学・公的研究機関グループの研究者用(ID が「3 及び 7」から始まる場合)
→ 個人を対象としていますので、5 年間の調査期間中に異動された場合も、引き続き調査への協力をお願い致しております。
→ 誠に恐れ入りますが、調査の案内を新しい連絡先にご転送ください。または、一般社団法人輿論科学協会(担当: 島田、伊藤、井田、teiten[at]yoron-kagaku.or.jp)に新しい連絡先をお知らせ頂ければ、改めて調査の案内をお送りします(お手数をお掛け致しますが、メールアドレス中の[at]には「@」を入れてください)。
- ④ 大学・公的研究機関グループの大規模研究開発プロジェクト(SIP, ImPACT, COI)の研究責任者用(ID が「4 及び 8」から始まる場合)
→ 調査開始年の 2016 年度時点で、戦略的イノベーション創造プログラムの研究責任者、革新的研究開発推進プログラムの研究開発責任者、センター・オブ・イノベーションプログラムの研究リーダーの役職にある個人を対象としています。大規模研究開発プロジェクトから離れた場合や異動された場合も、引き続き調査への協力をお願い致しております。

→ 誠に恐れ入りますが、調査の案内を新しい連絡先にご転送ください。または、一般社団法人輿論科学協会(担当: 島田、伊藤、井田、teiten[at]yoron-kagaku.or.jp)に新しい連絡先をお知らせ頂ければ、改めて調査の案内をお送りします(お手数をお掛け致しますが、メールアドレス中の[at]には「@」を入れてください)。

⑤ イノベーション俯瞰グループ用(ID が「9」から始まる場合)

→ 個人を対象としていますので、異動・転勤・退職された場合も、引き続き調査への協力をお願い致しております。

→ 誠に恐れ入りますが、調査の案内を新しい連絡先にご転送ください。または、一般社団法人輿論科学協会(担当: 島田、伊藤、井田、teiten[at]yoron-kagaku.or.jp)に新しい連絡先をお知らせ頂ければ、改めて調査の案内をお送りします(お手数をお掛け致しますが、メールアドレス中の[at]には「@」を入れてください)。

Q. 大学・公的研究機関グループの学長等・機関長用(ID が「1 及び 5」から始まる場合)の調査票と大学・公的研究機関グループのマネジメント実務担当用(ID が「2 及び 6」から始まる場合)の調査票は同じ内容のものです。学長等・機関長用の調査票で回答した場合、マネジメント実務担当用の調査票では回答しなくてもよいでしょうか。

A. 調査票は両者で一部異なります。本調査はその地位・役職にある方の個人の意識を問うものです。それぞれの調査票にその地位・役職にある方がお答えいただきますよう、可能な限りお願い致します。前年度から、学長や機関長が交代された場合やマネジメント実務担当の役職を交代された場合は、新任の方がお答えいただきますようお願い致します。本調査は調査開始時点(2016 年度)において調査協力をお願いを行い、5 年間の継続した調査協力をご承諾いただいた機関に調査票を送付しておりますので、今年度調査へのご協力を重ねてお願い申し上げます。

Q. (異動について) 2019 年度調査の案内が届いていません。

A. 2018 年度調査の際にお知らせ頂いた連絡先に調査の案内を差し上げております。案内が届かない場合は、改めてお送りしますので、一般社団法人輿論科学協会(担当: 島田、伊藤、井田、teiten[at]yoron-kagaku.or.jp)に新しい連絡先をお知らせ頂ければ、改めて調査の案内をお送りします(お手数をお掛け致しますが、メールアドレス中の[at]には「@」を入れてください)。

Q. (異動について) 前年度調査から職場や地位が変わりましたが、そのまま回答しても良いですか。

A. 調査票により、その地位にある方にご回答をお願いするのか、個人にご回答をお願いするのかの取り扱いが違います。以下に考え方をまとめます。

- ① 大学・公的研究機関グループの学長等・機関長用(ID が「1 及び 5」から始まる場合)
→ 学長や機関長の地位にある方にご回答をお願いしております。学長や機関長が交代された場合は、新任の方がお答えください。

- ② 大学・公的研究機関グループのマネジメント実務担当用(ID が「2 及び 6」から始まる場合)
→ マネジメント実務担当の役職にある方を調査対象としております。マネジメント実務担当の役職を交代された場合は、新任の方がお答えください。

- ③ 大学・公的研究機関グループの研究者用(ID が「3 及び 7」から始まる場合)
→ 個人を対象としていますので、5 年間の調査期間中に異動された場合も、引き続き調査への協力をお願い致します。
→ 大学・公的研究機関から民間企業へ異動された方については、イノベーション俯瞰グループの調査票をお送りします。
→ 研究開発とは全く関係のない組織等に異動され、調査へのご回答が困難となった場合は、おそれいりますが、その旨を事務局にお知らせ下さい。以降は調査の案内を送付しないように手続きいたします。

- ④ 大学・公的研究機関グループの大規模研究開発プロジェクト(SIP, ImPACT, COI)の研究責任者用(ID が「4 及び 8」から始まる場合)
→ 調査開始年の 2016 年度時点で、戦略的イノベーション創造プログラムの研究責任者、革新的研究開発推進プログラムの研究開発責任者、センター・オブ・イノベーションプログラムの研究リーダーの役職にある個人を対象としています。大規模研究開発プロジェクトから離れた場合や異動された場合も、引き続き調査への協力をお願い致します。
→ 研究開発とは全く関係のない組織等に異動され、調査へのご回答が困難となった場合は、おそれいりますが、その旨を事務局にお知らせ下さい。以降は調査の案内を送付しないように手続きいたします。

- ⑤ イノベーション俯瞰グループ用(ID が「9」から始まる場合)
→ 個人を対象としていますので、異動・転勤・退職された場合も、引き続き調査への協力を

お願い致します。

- 研究開発とは全く関係のない組織等に異動され、調査へのご回答が困難となった場合は、おそれいりますが、その旨を事務局にお知らせ下さい。以降は調査の案内を送付しないように手続きいたします。

Q. (調査票について) 意見の変更理由には具体的に何を書けば良いですか。

A. NISTEP 定点調査 2018 の頃と比べて、状況が変化したと思われる点についてお書きください。
記述の例を以下に示します。

- ✓ ○○の予算が増えて、○○ができるようになった。
- ✓ ○○の制度が変更されて(手続きが簡素化されて)、○○が行えるようになった。
- ✓ 新たな○○の取組みが始まったことの副作用で、○○の問題が生じてきた。

―― 以下は、NISTEP 定点調査 2016 の際の Q&A です。

Q. (全般) 本調査のねらいは何ですか。

A. 「科学技術の状況に係る総合的意識調査(以下、NISTEP 定点調査)」は、基礎研究の多様な
通常の研究開発統計からは把握しにくい、日本の科学技術とイノベーションの状況について、産
学官の研究者や有識者への意識調査から明らかにする調査です。これまでに 2 期 10 年間実施し
てきました。

第 5 期科学技術基本計画(2016～20 年度)では、客観的根拠に基づいて政策を推進するため、
定量指標及び目標値が設定されました。NISTEP 定点調査の結果は、定量データだけでは把握が
難しい研究現場における状況変化を示すことから、基本計画の進捗状況の把握や次期基本計画
の策定において、これまで以上に重要な役割を果たすと考えています。

本調査の特徴は、毎年、同一の回答者に、同一の調査票を用いて意識調査を実施する点です。
今回の調査は第 5 期基本計画期間中(2016～20 年度)の 5 年間にわたって実施します。

2 年目(毎年秋ごろ実施予定)からは、ご本人の前回の回答結果をお示しし、前回と異なる回答
の場合はその変更理由を、前回と同じ回答であっても補足などがある場合には意見等をご記入頂
きます。これにより、第 5 期基本計画期間における、我が国における科学技術とイノベーションの状
況の変化とその変化の理由を明らかにしていきます。

**Q. (調査票) 1～6 段階で回答する質問について、1～6 はどのような基準で選べば良い
ですか。**

A. 下の質問の場合、若手研究者(博士課程学生は除く)に自立と活躍の機会を与えるための環
境の整備が十分とお考えの場合は「6」に、不十分とお考えの場合は「1」に印を付けて下さい。た
だし、十分や不十分にも度合いがありますので、それを考慮して「1」～「6」の間で、ご回答下さい。
なお、回答に際しての前提条件は、質問や回答者グループによって変化します。

若手研究者(39 歳くらいまでのポストドクター、研究員、助教、准教授など、博士課程学生は除く)の状況
XXXにおける状況をお答え下さい。

問 1	若手研究者(博士課程学生は除く)に自立と活躍の機会を与えるための環境の整備は十分だと思いますか。	分 か ら な い	<input type="radio"/>	不 十 分	1	2	3	4	5	6	十 分
-----	--	-----------------------	-----------------------	-------------	---	---	---	---	---	---	--------

Q. (成果の公表方法について) 調査結果では、調査対象者の身元や所属先もコメント等と一緒に公表されるのでしょうか？

A. 調査にお答え頂いた方のお名前と所属については、報告書の最後に一覧として掲載する予定です。個別のコメントについては、属性情報と共に示し、誰のコメントかが特定出来ないようにします。

以下に報告書におけるコメントの掲載方法の例を示します。例に示したように、コメントの後に回答者の属性を示します。

若手の育成の方法に対しては、様々な意見がある。単に独立させるだけでは、十分な能力が発揮できない若手研究者も多い。集団の中で「みがく」事も重要であり、一面的な施策は危ない。両者の総合的なバランスが重要である。もう一点は、若手が自分の研究を提案し進める力を、指導者が十分に引き出す努力も必要である。(大学, 第1G, 理学, 主任研究員、准教授クラス, 男性)